

こんにちは。研修部の今村です。

今回は、「視覚障がい者の読書」についてです。

読書が困難な人がたくさんいらっしゃいます。視覚障がい者意外にも高齢や病気等で見えない、見えにくい、知的障がい、発達障がい等の理由で見えても内容を理解できない、肢体不自由等の理由で本が持てない、ページがめくれない、読書に困難のある人でもない人でも書店や図書館に行けない、インターネットが使えない等で読書が困難な方々がいらっしゃいます。

2019年6月に読書バリアフリー法（「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」）が施行され、障害の有無に関わらず、全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に向けて、視覚障害者等の読書環境の整備を総合的かつ計画的に推進しています。

ここでは、いろいろな読書の方法を御紹介いたします

1 大きな文字で読書する。

- (1) 大活字本：大きな活字の本として、販売されている本です。
- (2) 拡大写本：パソコンで入力して大きな文字で印刷したもの
- (3) 拡大読書器：ディスプレイで本を拡大して見ることができ、倍率を自由に変えることができる。白黒反転などを行うことができる。卓上型や小型のものもある。

2 聴覚を活用した読書

- (1) 保護者や教員等に読んでもらう。
- (2) デジタル録音図書「デージー」：音声で聞くことができ、世界で同じデータ形式である。
- (3) オーディオブック：販売サイトから購入できる。

3 触る読書

- (1) 点字本
- (2) 点字付き絵本、ユニバーサル読本、触る絵本
- (3) 布の絵本：布やフェルトで作られていて、マジックテープ等を用いて、取り外すなどして遊べる。

4 聴覚と視覚を活用した読書

- (1) マルチメディアデージー（図書、絵本）：再生するには、パソコン、スマートフォンが必要
- (2) マルチメディアデージーの教科書：タブレット、パソコンで再生でき、見やすい文字の大到できる。読み上げているところをハイライト表示させることもできる。

5 優しくわかりやすい内容の本で読書

- (1) LLブック：文章をわかりやすく読みやすくして書かれた本
- (2) 写真やピクトグラム（絵記号）を使って、わからないわかりやすく書かれた本

このようにさまざまな読書の方法がありますが、まだまだ、多様なバリアフリー図書があることを知らない方々がたくさんいらっしゃいますので、ぜひ、この通信を読まれた方は、周りの方々に教えてください。

最後に、令和5年度に「子供の読書活動優秀実践校の文部科学大臣表彰」を受けた本校図書館の読書バリアフリーの取組担当：宮井が御紹介します。

本校図書館には、点字・デージー・拡大図書など本人の利用しやすい形式の図書があります。サピエ図書館や国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスに登録し、アクセシブルな蔵書の充実に努めています。また、読書を支援する機器【プレークストークやMy Book】の活用、スマートフォンやタブレット、パソコン等、ICTを活用した読書支援にも取り組んでいます。高等部専攻科の生徒に対しては、著作権についての指導やアクセシブルな図書の作成方法についても卒業後の学びを見据えて助言を行っています。詳細については[本校のホームページ](#)をぜひご覧ください。

しかしながら、読みたい本がいつでも自由に読める環境の実現にはまだまだ課題もあります。少しでも読書バリアフリーへの理解が広がり、支援者や図書館間の連携、読書バリアフリーのネットワークづくりができるように今後も取り組んでいきたいと思ひます。